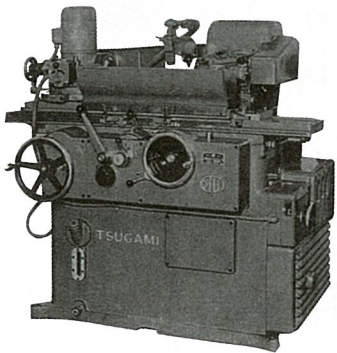


6月29日に学園創立
94周年式典を挙行

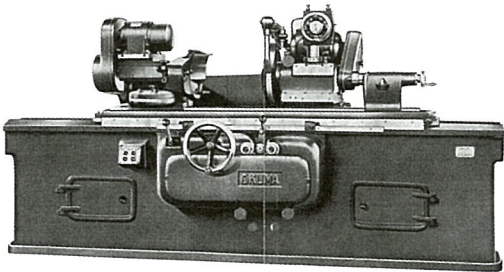
平成13年(2001年) 6月1日発行

第三回「歴史的価値のある工作機械」の顕彰

(株)ツガミ (旧 [株]津上製作所)
油圧式万能円筒研削盤
T-UG300型

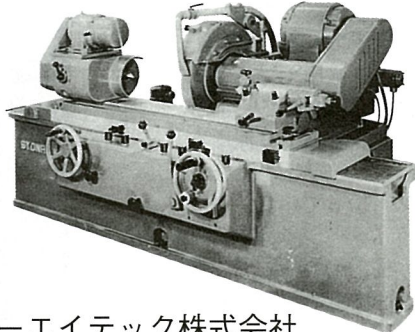


オークマ株式会社 (旧 [株]大隈鉄工所)
油圧式万能研削盤 GHU-300型

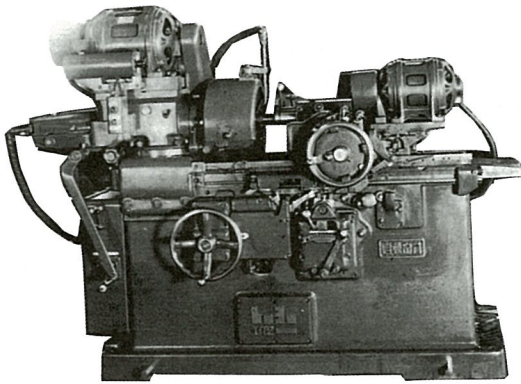


ロングライフ・ベストセラー賞

株式会社 日平トヤマ
(旧 大日本兵器株式会社湘南工場)
円筒研削盤 CGA型



トーヨーエイトック株式会社
(旧 東洋工業株式会社)
内面研削盤 T72型



ベストテクニカル賞



「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」(会長・大和田国男・工業技術博物館後援会会長)では五月三十一日(木)に今年の表彰式を挙行政した。一昨年から始まったこの顕彰は今年で第三回目であり、今回顕彰された機械はいずれも研削盤で、ロングライフ・ベストセラー賞には、オークマ(株)の油圧式万能研削盤GHU-300型と(株)ツガミの油圧式万能円筒研削盤T-UG300型の二機種が選ばれた。

今回の顕彰対象機種は候補募集は昨年八月に発表し、工業技術博物館の後援会

厳選された四つの名機

工業技術博物館長 松野 建一教授

員(社)日本工作機械工業会等関係団体の会員、工作機械に深い個人など宛てに、約八百通の推薦依頼状を送付した。その結果、九月十一日から十月二十日までの応募期間に十八機種が推薦された。

「ツガミ・油圧式万能円筒研削盤T-UG300型」この研削盤は昭和十三年に商工省から工業奨励金を得て、フォーチュナ社製の研削盤を参考に、長年にわたる精密機器製作の技術を駆使して独自開発されたもので、翌十四年に完成し、二十年間にわたって二百三十台が生産販売され、戦後の研削盤の基礎を築いた。砥石軸受に滑り軸受(割リメタル方式)を採用、油圧駆動によるテーブルリ等の特性により、現在なお多くの生産現場で高精度を保って使用されている。

「トーヨーエイトック・内面研削盤T72型」この研削盤は前身である東洋工業が総動員試験研究命令に従い、米国ヒール社製の内面研削盤をモデルに、自動車製造で培った技術を駆使して開発した。砥石軸受にアンギュラコンタクト軸受を採用して高速化と高剛性の主軸系を構成するなどの改良を加え、研削精度の向上に貢献した。昭和十六年から二十年までに九百六十台生産され、昨までのシリールズ累計生産台数は八千九百台を超え、シェアも極めて高い。

「オークマ・油圧式万能研削盤GHU-300型」この研削盤は昭和十五年の国産工作機械試作計画(総動員試験研究命令)により、米蘭ランジス社製の万能研削盤をモデルとして開発された機種で、昭和十六年の販売開始から昭和二十年までの間に五百台を販売した。油圧駆動式自動切り込み停止装置による寸法管理方式の採用、砥石早送り、に画期的な構成の油圧シリンドラーの採用、セグメント方式の滑り軸受保護のため、ダイヤライム設定機構の採用等、さまざまな新しい装置を採用しており、以後開発された各種研削盤の基盤となった。

なお、今回の顕彰は四月末から五月にかけて(株)日刊工業新聞社、(株)ニュースタジエス社等の各紙誌で紹介された。この顕彰制度は昨春秋に東京ビッグサイトで開催された第二十回日本国際工作機械見本市(JIMTOF)でも紹介され、年々広く知られるとともに高く評価されるようになった。

※松野健一先生は、本年四月より館長に就任。

本学表敬のバーレーン大学長「知識の炎」を配した盾を寄贈

4月9日、中東における石油精製と金融のセンターであるバーレーン国から、「情報技術センター」を中心として、バーレーン大学のガタム学長と令夫人が来学された。本学の神馬学長を表敬訪問されたご夫妻は、廣瀬教授部長から本学の来歴と現状の説明を受けた後、情報技術センターを中心として、バーレーン大学のガタム学長と令夫人が来学された。本学の神馬学長を表敬訪問されたご夫妻は、廣瀬教授部長から本学の来歴と現状の説明を受けた後、情報技術センターを中心として、バーレーン大学のガタム学長と令夫人が来学された。

「機械工作センター」では、自動車、バイク、ステアリングに用いられる特殊歯車の精巧なつくりに関して熱心に質問されるなど、バーレーン国における産学リエゾンにおける中心人物の片鱗をうかがわせた。

ガタム学長が本学を選んで来学されたのは、自動車、バイク、ステアリングに用いられる特殊歯車の精巧なつくりに関して熱心に質問されるなど、バーレーン国における産学リエゾンにおける中心人物の片鱗をうかがわせた。



大川理事長も交えた、学長室での歓談では、ガタム学長より、フィッシングの盛んなバーレーンの国情がユニークな点を交えて説明され、バーレーン教育設備の充実ぶりや格別の関心を抱かれたことについて、廣瀬教授部長から本学の来歴と現状の説明を受けた後、情報技術センターを中心として、バーレーン大学のガタム学長と令夫人が来学された。

大川理事長が叙勲の栄誉！

塑性加工学会にも多大な貢献



この5月10日、われらが敬愛する理事長の大川陽康先生が、国より栄えある勲三等旭日中綬章を授与された。

ちなみに先生は、昭和22年、旧制東京工業専門学校(現千葉大学)機械科を卒業。26年、東京大学理工学研究所研究生、42年、本学開学と同時に助教授に就任。教務部長の要職を経て、46年に教授に昇格。62年12月には第6代学長に就任され、平成7年12月まで敏腕をふるわれた。またこの間、平成3年3月には、第4代理事長に就任。学校法人日本工業大学の経営に専任され、今日に至っている。さらに先生は、塑性加工学会員(現在は名誉会員)として、ひろく機械工学の世界に貢献されている。

「肥沃で柔らかな土はすべて失われてしまい、後にはむき出しの大地の骨格だけが残っている。今では蜂のえさ以外には何もいらない山でも、それほど遠くない昔には木が生えていたのだ。」「クリティアス」における哲学者プラトンの嘆きは、古代ギリシアにおいて、すでに環境問題が存在したことを物語っている。明治以来の殖産興業は、近代日本の輝かしい歴史であるが、それはまた、環境問題を加速度的に進行させた。減量リサイクル対策が未成熟で、消費を前提とした経済構造が変わる兆しを見せない日本では、廃棄物の量的増大により、従来の処理・処分機能の限界が見えつつある。一九九一年、翌年の「国連環境開発会議」を成功させるために、世界のビジネス・リーダー五十名からなる「持続的発展のための産業界会議」が創設され、環境破壊を最小限に食い止めるためには、国際規格の制定が有効手段になるとの結論を見た。本学が、その取得を目指している「国際標準化機構」(ISO)がそれである。『太陽光発電システム』などを代表例とする、本学の「エコキャンパス」構想は、資源循環型社会の実現に要請に応えるものである。何も大仰に考える必要はない。例えば、学生諸君が、タバコの吸殻の捨て方やゴミの分別に気を付けることも、また環境への重要な配慮である。まずは、身近の小さなことから始め、二十一世紀の教育環境のあるべき姿をこのキャンパスで率先して示し、共に本学を資源循環型社会のパイロットとしていこう。

若杉抄

テキサス大学での研究生生活 雑感

白石 一郎教授 (建築学科)

1999年9月から2000年8月までの1年間、米国テキサス大学オースチン校での国外研修の機会を与えられましたので、その折りの雑感を書かせていただきます。この大学のあるオースチンは、テキサス州の州都ではあるものの、ダラスやヒューストンといった大都会とはほど遠く、緑豊かな小さな田舎町という表現がぴったりです。

ここオースチンには、テキサス大学以外にも6つの大学があり、学生や大学関係者が多く、さながら大学の町といった感じでしょうか。最近では、多くのコンピュータ関連企業の進出もあり、高学歴者の人口比率が高いというのも特徴のようです。そのためか、オースチンは犯罪発生率が低く、安全な町というイメージが定着し、さらに気候の温暖さも手伝って、「住みたい町」の全米ベスト3には必ず入る町だということです。

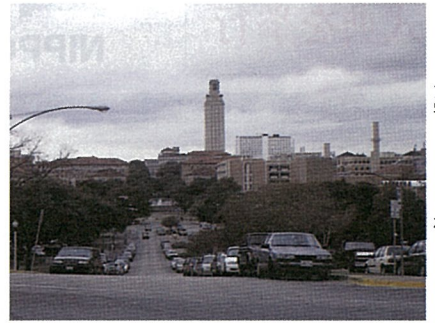
さて、研修先のテキサス大学ですが、オースチン校の他にも8カ所にキャンパスがあり、全米でも最大規模の総合大学です。また規模だけでなく、研究レベルも高いとのことで、オースチン校だけでも教授が2700人おり、その中にはノーベル賞受賞者が2名(テキサス大学全体では7名)含まれるとのこと。研究基金は1億ドルにも及ぶそうで、その研究分野は古代マヤ人の象形文字の研究から人間代替ロボットの研究等々広範囲に渡っています。私がお世話になった工学部も、全米の最優秀校の一つに数えられています。

今回の国外研修を受け入れて下さったJirsa教授は、鉄筋コンクリート構造の耐震安全性が専門で、世界的に著名な研究者です。現在、先生は土木工学科の学科長であり、さらに、米国

コンクリート協会の会長という要職も勤められています。そのため、国内外の出張が非常に多く、先生と話し合う機会があまり持てなかったことは、少々心残りとなっています。Jirsa教授の研究室には、これまでも日本の大学及び企業から多くの研究者が留学していて、私の部屋も日々日本人が使っていたようで、日本の雑誌がたくさん残されており、大変重宝しました。

ところで、テキサス大学では、毎朝、大学新聞が無料で発行されています。この新聞は十数ページもある立派なもので、大学内のニュースだけでなく、一般的なニュースも扱っていて、単なる大学新聞というイメージではありません。この新聞が構内のあちこちに置かれているので、誰でも手軽に読むことができます。この新聞には、大学関係者の収入ランキングが発表されますが、ランキング上位者がフットボールやバスケットボールのコーチであるのは、いかにもアメリカ的です。肝心の教員が、ノーベル賞受賞の教授がや々と上位に顔を出すくらいというのは、ちょっと残念。

ここで、米国の学生について少し述べておきます。米国の大学生がよく勉強するということは以前から聞いていましたが、これは本当のようです。たとえば、土木工学科の廊下にはテーブルと椅子が並べられていますが、いつ見ても勉強している学生でいっぱいです。また、学外の喫茶店などでも同様で、コロラド川沿いにある眺めのすばらしい喫茶店に私もよく行きましたが、学生がコーヒー1杯で長時間粘り、勉強をしている姿をよく見かけました。これは、宿題が多いことや、授業中に発表の機会が多く、その準備に忙しい



テキサス大学オースチン校



ファークソン構造工学研究所

ことなどが主な原因のようです。まあ理由はどうあれ、これが大学本来の姿のはずで、日本の学生の学力不足が取りざたされていることを改めて思い起こされました。

私の通ったファークソン構造工学研究所は、大学のメインキャンパスから車で30分ほど離れた研究センターの中にあります。この研究所は、世界でも最大規模で、設備も一流と言われているが、歴史のある研究所のためか、設備がやや古くなったという印象を受けました。しかし、試験体のほとんどは実物大で、ちょうど実験中であったPC梁の試験体も長さ10m以上あり、さすがに迫力満点です。

研究所の事務棟は、高名な研究所にしてはやや質素な平屋建てで、教員や

事務員の部屋のほかに、訪問研究員の部屋がいくつかあり、世界各国から常時何人かを受け入れています。私の隣の部屋には、オスロ大学からの老教授がいらして、何かと親切にしてくださり、にわかノルウェー最良人になってしまいました。

今回の国外研修では、研究所の諸先生や事務員の方が大変親切にくださり、研究環境は理想的でした。また少し心配していた人種偏見も全くなく、非常に気持ちよく有意義な研修をさせて頂きました。このたび国外研修を受け入れて下さったJirsa教授に感謝するとともに、このような機会を与えていただいた日本工業大学、および、研修中大変ご負担をおかけした建築学科の皆様へ深謝いたします。

工高出身学生への助言と期待

工業教育研究所・教授——大場 廣子



大場廣子教授

工業高校出身者にとっての憧れの大学、日本工業大学に、今年も清新の気溢れる多数の新入生が迎え入れられた。祝意と同時に期待を込めて、より健全にして充実した大学生活を邁進して頂くための心得を助言しておきたい。

新入生はこの四月、大学という未知の世界に対して胸を躍らせる気持ちと、「果たして、大学生活をうまくやっていけるのだろうか」という不安な感情を複雑に交錯させながら、力強くその第一歩を踏み出したに違いない。特に親元を離れて一人暮らしをスタートさせた者にとって、二四時間の生活全てを自己管理すると言うことは、かなり厳しい試験ではないだろうか。そんな中であってまず第一に心掛けることは「健康管理」である。

飽食の時代に育った現代っ子、食事をさまざまに工夫したとしても、栄養のアンバランスからくる身体への赤信号は、ついつい見落としがちである。「身体がだるい」、「やる気がわかない」、「授業に集中できない」等に

点検して見て欲しい。好きな食べ物に偏りすぎた食事内容になっていないかどうか。さらに、入学という目的を果たした途端に、目標を見失い、学習意欲も薄らぎ、放縱な生活に流されてしまったら、我が身に降りかかるさまざまなことがストレスとなつて、健康を大きく損なうことが間々起こる。これがいわゆる「スランプに陥る」という状態である。そんな時は、焦らず、逃げ出さず、自分の方向を見失わぬようにして自身と向き合い、よくよく考え込み、時の過ぎるのをじっと待つ、然るべきときに、然るべきタイミングで積極的に相談を掛けるなどして、脱出を試みるのが大切である。「健康は最高の宝」であることを肝に命じておいて欲しい。新しいスタートラインに立った今、次なる新たな目標を設定し、いよいよ自立の精神を発揮して、自ら学び、自らを教育する時期に入ったことをしっかりと認識すべきである。

次に心掛けることは、「学習の態度」についてである。世間一般の風評として、「工高出身者は、実直であり、与えられたものは無難にこなすが、自ら積極的に求める」という学習態度から「学びたいから教えるを乞う」とか、「基礎的な学力が不十分である」等々を耳にする。替えて、その学習に取り組みんで見て欲しい。特に、つまづいている為に、前に進むのが困難を極めている科目には、十分に時間をかけて、そのものを集中的に学習するという主体的な学習の習慣を養っておくこと。不得手な科目であっても必要とあらばとことんやり抜くこと。厳しい訓練が自分を大きく育ててくれる貴重な教材であることを信じて、前に進むだけを考えて。要は、克服しようという強い意志と不断の努力が出来るにかかっている。こうした厳しい指摘を謙虚に受け止め、自身を見つめ直し、「なぜか成る、なぜか成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」(その

気になつてやれば、どんなことでもできるという意志の大切さを教える言葉)「(上杉鷹山)の心境で、背筋を伸ばし、勇往邁進して欲しいものと強く願っている。次に「社会常識を豊かにして欲しい」ことである。常日頃から、いろいろな問題に関心を持ち、自分の意見を磨き、率直に語り合えるような良き友を得て、切磋琢磨しながら、人格を高めて欲しい。溢れる情報のなかで、方向を見失い、溺れてしまわぬように、主体的に情報を選択し、その価値を判断し、利用して行く能力を磨く為にも、新聞は勿論のこと、図書館にも細やかに足を運び、工学分野を超えた読書に励むことも必要になつてくる。高い倫理観に立ち、創造性豊かな逞しい実践力を備えた専門技術者を目指す皆さんが、後に続く多くの後輩達の為にも、この緑豊かな素晴らしい学習環境と、恵まれた施設・設備を十分に活用し、心優しい先生方や支援して下さるご家族の皆さんへの感謝の心を失わず、実直に正しいと信ずる道をまっしぐらに進んでいくつくれるものと確信している。

7月21日(土)

オープンキャンパス



分厚い実験・実習施設を
自分の眼で確かめてみよう!!



新入生必読

成績評価とGPA制度

精選した科目の予習・復習に力を!!

教務部教務課

学生諸君の授業への積極的参加と意欲的学習を図るべく、本年度から、成績評価の付加と学修規程の改正が行われた。まず、Aといっても成績に幅があることに鑑み、特に優れた学業成績を残した学生には、AA評価を付与することになった。そして、各段階の評価に対して、グレード・ポイントを与え、単位当たりの成績平均値を算出する。これはGPA制度というもので、米国の大学で一般化している制度である。この制度は、学業に対する努力が、よりきめ細かく正当に評価されるべきだという発想にもとづくもので、今後、国内の他大学にも普及して行くだろう。

フレッシュマンゼミ

今春の入学生を対象に、学修と生活面での指導内容を盛り込んだ、フレッシュマンゼミが始まった。フレッシュマンゼミは、春学期に週一回開講される。

本学では、学長を長とする「学修指導委員会」を発足させ、学生諸君に、明確な目標を持って学習に取り組んでもらうための方法について検討してきた。フ

フレッシュマンゼミも、その成果の一つである。

各学科のフレッシュマンゼミへの対応を説明すると、まず機械工学科は、フレッシュマンゼミを、新設の授業科目に盛り込んでいる。そして、電気電子工学科は「電気工学特別演習」に、システム工学科は「システム工学概論」に、建築学科は「建築概論」に、と各学科は、授業科目のなかにゼミ内容を組み入れることになった。なお、建築学科の「建築概論」を除き、ゼミ内容を含む科目は必修とされている。

これらの現実を踏まえ、各学生が意欲的に学習に取り組む、その長所を十二分に伸ばしてもらうためには、教員の研究や教職課程の内容容について早い段階から把握してもらうことが、どうしても必要であると痛感されたのである。

生活指導

新入生には不案内のことも多く、特に遠隔地から転居して来た学生諸君は、環境の変化から、精神的に不安定になることもあるだろう。

コミュニケーション活動の必要性

大学は、単に知識を伝授するだけでなく、教員や友人との交流によって、人間形成を図る大切な場でもある。大学はまた、責任感をもつて物事を判断し、行動する能力を持つ有為な人材を育成して、社会に送り出すところでもある。

学修指導

本学では、従来の入学者選抜方法に加えて、AO入試を導入し、多面的な評価尺度で入学者を選抜している。そのため、多彩な能力や適性を持つ学生が入学して来るようになった。

標達成のための一助になることが期待される。

成績評価に関する変更点について

本年から、成績評価と学修指導に関する変更点が二点あるので、留意してもらいたい。

まず第一点は、AA評価の追加である。平成十二年度以前の入学生の成績は、A B C Dの四段階で評価されていた。しかし、本年度の新入生からは、九十点以上を獲得した学生に対して、AAという評価があらたに加わるようになった。これまでのA評価は、八十点以上九十点未満の学生が対象となり、B以下の評価については、従来通りである。

GPA制度について

つぎにGPAであるが、まずこのGPAという聞き慣れない用語について解説しておこう。

GPAとは、「グレード・ポイント・アベレージ」の略語で、学業成績平均値にもとづく、米国の大学で普及している成績評価法である。

アメリカにおけるGPAの一般的な適応例を、以下に簡略して紹介しておく。①まず、授業科目ごとの成績評価を五段階(A・B・C・D・F)で評価し、各々に4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与して、この単位あたりの平均を出す。

②単位修得はDでも可能であるが、卒業のためには、通算GPAが二・〇以上であることが必要とされる。

③三セメスター(二年半)連続してGPAが二・〇未満の学生に対しては、退学勧告がなされる。

このような取り扱いはい、一セメスター(半年)に最低十二単位、最高十八単位の標準的な履修を課した上で成績評価し、行われるのが一般的である。

本学におけるGPA

本学の評価方法は、A・B・C・Dで成績評価し、各々に、4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与する。GPAの計算式を左に示す。

なお、履修申告した科目すべてが、GPAの計算対象に含まれるので、Dの成績評価はもちろんのこと、履修申告しているにもかかわらず試験を受けなかった場合なども、(スラッシュ)の表示がなされ、GPAは〇となる。再履修して合格しない限り、Dあるいは/の表示が残る。GPA数値が低くなるので注意が必要である。

本年度より、進級のための条件が廃止され、新しい学修規程(第二十四条)により、①一年次終了時に修得単位が三十単位未満またはGPAが一・〇未満の場合、②二年次終了時に、修得単位数が六十単位未満またはGPAが一・〇未満の場合、学修指導が行われる。

過剰な履修申告を避け、精選した授業科目を受講し、予習・復習を欠かさなければ、GPA制度のもとで、学生諸君は、きめの細かい正当な評価を受けることができるだろう。

近い将来、大学を三年で卒業できるようにすることが予想されている。その際、努力した者がより多く報われるGPA制度が大きな役割を果たすことは自明であろう。

近いうちに、退学勧告がなされる。

第34回体育祭 開催

みんなが輪になって…

建築学科が上位を独占



1年生代表による400Mリレー決勝



優勝した建築学科チーム

五月二十日の日曜、本学の第34回体育祭が開催された。真夏を思わせる太陽がジリジリと照りつける宮代のグラウンドを、新入生を中心とした、若いエネルギーが圧倒した。体育系と文系の学生団体の紹介も兼ねた「クラブ・アトラクション」には見所が多く、特に砂塵を巻き上げて登場したアメフト部員によるフォーメーションは、観客を魅了した。

総合成績では、建築学科のAaとAbの二チームが1位2位を独占。女子学生の比率が多いことを思えば、日工大の女性パワーの偉大さをあらためて印象づけた体育祭だったと言える。

STUDENT FACE 2001



古谷 考輝 君
(電気電子工学科3年)

■インカレでの決勝進出にける夢

ところが、実際に東京工業高校に入ってみると、自転車部はなくなっていた。どうにかして走りたいと、とができた。

以前の顧問だった建築科の木村先生のところに陳情に行くと、先生も容易には腰を上げない。たった一人のために部活動を立ち上げるために、みんなで競技会に参加する、ルールを説明から車体の整備まで、彼が率先してチームの面倒を見なければならぬ。一年目はこれに就任していただいた竹内貞雄先生、メンバー募集の結果を出すのができなかった。そこで新たにマネージャーを迎え、意を決してのぞんだ二年目だが、今度は、現在の夢である。

活動に何かと制約の多い「サークル」の立場にありながら、体育会所属の「クラブ」と同等の活躍を続ける古谷君。この頑張りを見てると、彼とこのサークルの発展を願わずにはいられない。

(塚)

わけにもいかないし、それに木村先生には、古谷君が途中で投げ出してしまおうではないかという危惧もあった。しかし、そんなことでお父さんの現役時代には、自転車競技の強豪として鳴り響いた学校である。

近いうちに、退学勧告がなされる。

機械工学科の神助手が 砥粒加工学会で 論文賞の栄誉

機械工学科・神雅彦助手、機械工作センター・宮沢肇助教並びに機械工学科・村川正夫教授らは、このたび砥粒加工学会「論文賞」受賞の栄誉に輝いた。同賞は砥粒加工学会誌に掲載された論文「レーザ加工および研削加工併用法による精密小径穴加工に関する研究」第一報 ファインセラミックスの小径深穴加工」に対し同学会より贈賞されたもので、過去二年間に学会誌に掲載された論文の中から特に優秀と認められた。論文の内容は、硬いファイ

「型技術ワークショップ2000」において野口裕之講師、林正弘大学院学生、神雅彦助手、竹内貞雄講師、村川正夫教授らが発表した「超音波ミリングを利用した型彫り加工」が奨励賞を受賞した。

ハイテクリサーチセンターでの スーパーカーボン加工の研究で 型技術協会「奨励賞」を受賞

「型技術ワークショップ2000」において野口裕之講師、林正弘大学院学生、神雅彦助手、竹内貞雄講師、村川正夫教授らが発表した「超音波ミリングを利用した型彫り加工」が奨励賞を受賞した。

この研究は、本学ハイテクリサーチセンター整備事業におけるスーパーカーボンの加工と応用で行われているものである。

そこでダイヤモンド工具に超音波振動を付加し断続的に鉄系材料の切削を行うシステムを開発し、鉄系材料の切削におけるダイヤモンド工具の摩耗を抑制することを考案し、これに成功したのである。

物質の中で一番硬いことから、加工工具として実用化されている。しかし、ダイヤモンドで鉄系材料の切削を行うとダイヤモンドがすぐに摩耗してしまい、鉄系材料の加工は困難であった。この原因は鉄とダイヤモンドとの接触に伴う化学反応であり、この反応を抑制することができればダイヤモンドで金型などの硬質鉄系材料の切削が可能となり、産業的価値は大きい。

秀教育賞は、情報処理教育に関して優れた教育の実践を行った個人正会員を対象に授与されるもので、初等中等教育における情報処理教育に学生の情報活用ポラ

ンティアを通して貢献したことが高く評価されたものである。大木助教が受賞された優秀教材賞は、情報処理教育に関して優れた教材の開発を行った正会員を対象に授与されるもので、ソフトウェア工学教育のために出版された三冊の本と教育カリキュラムが、その実践的な内容から高く評価されたことが受賞の理由である。

情報工学科で情報処 理学会より二件の受賞

情報工学科の片山教授と大木助教が、この春の情報処理学会全国大会でそれぞれ優秀教育賞と優秀教材賞を受賞された。

情報工学科の片山教授と大木助教が、この春の情報処理学会全国大会でそれぞれ優秀教育賞と優秀教材賞を受賞された。

情報工学科の片山教授と大木助教が、この春の情報処理学会全国大会でそれぞれ優秀教育賞と優秀教材賞を受賞された。

協定校の南台科技大教授団来学



学長室での記念写真

4月17日、本学と提携関係にある台湾の南台科技大から、張信雄校長及び張鴻德、楊清發の両博士が来学され、学長室において、神馬学長、廣瀬教務部長、松田郁夫教授、石田之則教授、京野教務課長との間で対談が持たれた。

行の目的は、本学大学院に研究生を留学させる際の協定締結のため、具体的な協議を行うことである。本学との教授交換等の実績により、台湾文部省から高い評価を受ける科技大は、上場企業のための研究開発所を学内に設けるなど、産学リエゾンの中核を担っている。

機械工学科の梅崎教授の研究に 設備整備費等の補助金交付決定

平成十二年度私立大学等研究設備整備費等補助金の交付が決定した。機械工学科梅崎教授研究の「三次元高速変形計測システム」(事業費三九、六九〇、〇〇〇円)に対して補助金一四、二二一、〇〇〇円が交付された。

梅崎教授は、これらを実験的に強度評価するため、三次元構造材の実験応力・ひずみ解析、生体構造材の実験応力・ひずみ解析に取り組んでいる。本システムの特徴は、構造材が受ける負荷の高速により、二次元又は、三次元変位・ひずみを高速で測定できる点であり、右記の研究の格段の進歩が期待できる。

ひずみ解析、生体構造材の実験応力・ひずみ解析に取り組んでいる。本システムの特徴は、構造材が受ける負荷の高速により、二次元又は、三次元変位・ひずみを高速で測定できる点であり、右記の研究の格段の進歩が期待できる。

近事片々

私は現在、東京都の中学校に勤務しています。かつて、日本工大に入学した折、たしか同年の女子は私を含めわずか四名であつたと思います。今では大学の発展に伴い、女子学生の在籍数もたいへん増加しているようで、とても驚いています。また女子学生に対しての設備も、ずいぶん改善されていることと思います。

また、指導して下さいました先生方も心に残っています。数少ない女子学生であるが故に、職員の方や先生方は、ずいぶんと心砕いて見守ってくださいました。当時は全く気づかず、過ごしてしまいました。ご迷惑をおかけしたことを、

不足していたので、そのまま数年間の後、採用されることになりました。技術家庭科は、分野がたいへん広いので、学生時代に学んできた知識や技術以外にも幅広く要求されますし、その他様々な業務も受け持ちます。しかし、忙しさに追われる

杯職務に励むつもりです。ただ、私は不器用な生き方ばかりで、他人よりもいつも回り道ばかりしています。それでも結果的に確実な歩みであれば、ゆつくりでもいいのかもしれないと思う時があります。

ここ数年来、卒業生の就職難の話が耳に入ります。さぞご苦労されていることでしょう。特に女子学生の方々にとっては、なおさらではないでしょうか。

構造物の強度評価の道具として定着した感がある。しかし、稼動時の機械や構造物の強度評価、複雑な生体構造材などの強度評価に用いることは、非常に困難である。

梅崎教授は、これらを実験的に強度評価するため、三次元構造材の実験応力・ひずみ解析、生体構造材の実験応力・ひずみ解析に取り組んでいる。本システムの特徴は、構造材が受ける負荷の高速により、二次元又は、三次元変位・ひずみを高速で測定できる点であり、右記の研究の格段の進歩が期待できる。

先輩だより



笑顔の子供たちと 感動わかつ充実の日々

大形 久美子
電気工学科 第17期生
東京都北区立北中学校教諭

今時に生徒たちに思い悩む自分を通して改めて気づかれます。

さて、私が日本工大を卒業する年代も、今程ではないにしてもあまりよ

か、私は在学中に高校教諭の免許は取得しましたが、中学の方は全単位を取得せず途中で放棄していたために、臨時免許で講師を続けながら一年間再び日本工大に入学して不足単位を取得しました。幸い技術科の講師は

日々の中、子供たちから与えられる感動や笑顔は、私の喜びとなり幸福を感じます。その子供たちへ何を伝え、共に学ぶかの責任は大きいですが、やはり今日ここにある自分は大勢の恩師のおかげと感謝し、これらも精一

日々の中、子供たちから与えられる感動や笑顔は、私の喜びとなり幸福を感じます。その子供たちへ何を伝え、共に学ぶかの責任は大きいですが、やはり今日ここにある自分は大勢の恩師のおかげと感謝し、これらも精一

日々の中、子供たちから与えられる感動や笑顔は、私の喜びとなり幸福を感じます。その子供たちへ何を伝え、共に学ぶかの責任は大きいですが、やはり今日ここにある自分は大勢の恩師のおかげと感謝し、これらも精一

学内企業説明会開催!!

新聞に「今年の大手企業・技術系を中心に新卒採用を拡大する」との記事が

あり、今年の就職活動は一見楽に思えた。

しかし、企業の採用基準は依然として厳しがある。このような状況下で学生の活動の手助けとして、企業を学内に招いての説明会を七日間に渡り開催した。

しかし、この折角の機会を利用しない学生がいた事は実に勿体無い限りである。

この説明会の最大の目的は数多くの人事担当者や接触し、採用状況はもちろんの事、企業の考え方や内情を知り自分の進路決定の基にすることにある。

今後の学生諸君のより一層の奮起を期待する。

五月二十日、平成十三年後援会総会が学生会館にて開催され、新役員以下諸氏が選出された。

新時代に即した大学づくり推進のため、諸氏には従前にもます力強いご支援をお願いしたい。(敬称略)

新任教職員プロフィール

◆清水博幸 助手(超高压放電研究センター) 昭和五十一年八月十五日生まれ。平成十三年日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程電気工学専攻修了。

◆松浦寛 事務職員(企画室) 昭和三十一年十二月二十日生まれ。昭和六十三年上智大学大学院文学研究科フランス文学専攻博士後期課程修了。

人事異動

【任命】(4月1日付)
◆工業技術博物館長 松野建一教授(新任)
◆超高压放電研究センター長 佐伯正盛教授(再任)
◆工業教育研究所所長 木村寛治教授(再任)
◆機械工作センター長 酒井茂紀教授(再任)
◆先端材料技術研究センター長 村川正夫教授(再任)
◆電気実験研究センター長 森宮修教授(再任)
◆建築技術研究センター長 垣桑原文夫教授(再任)
◆情報技術研究センター長 榑澤康夫教授(再任)
◆保健体育センター長 兼 小林務教授(再任)

【昇任】(4月1日付)
◆鈴木功作総務部施設管理課主任→総務部施設管理課長に昇任
◆倉島清隆財務部経理課主任→財務部経理課長に昇任
【解任】(3月31日付)
◆財務部長 安部農
◆総務部施設管理課長 兼 加藤実

編集後記

グループでの行動が目立ってきているように感じられます。言うまでもなく生涯の友人をつくることは、人間にとって大切なことですが、この大学生活の中で皆さんにそういう出会いがあれば大学に務める者にとつて最高の喜びです。